

## 『私のセカンドファミリー』

鈴木 千鶴

私は去年もこのグアム派遣に応募しましたが、一緒に応募した兄が行くことになり私は兄のカウンターパートのピーターを日本で迎えました。

彼と英語で話したりグアムの文化やチャモロ語などを教えてもらったりするうちに、やはり自分がグアムに行っ様々なことを体験して学びたいと強く思い、再び応募し内定した時には嬉しさと選ばれなかった人や旅費などを負担してくれた両親を悲しませないように取り組もうという責任感で胸がいっぱいでした。

私のカウンターパートの Shy も家族もみんなパワフルだったので、空港で会ったときは少し心配でしたが好きな海外の歌手が一緒だったり、互いの国の言語に興味があることなど多くの共通点があり、すぐに仲良くなりました。

二日目のグアム観光局訪問では柏とグアムの姉妹友好都市としての歴史を学びました。TarzaWaterpark では水中バレーや鬼ごっこをしました。英語で色々伝えるのは難しかったけれど間違えながらも喋っていると自然とみんな寄ってきて友達が沢山できました。夜は仙とまさとカウンターパート達を家に招いてパーティーをし、チャモロフードに挑戦したり日本と違うルールでUNOをしたりして、より仲を深められました。

三日目は ChamoruVillage に行きチャモロフードや民芸品を買ったりしました。また、実際にグアムの人と会話している中で「日本から来た」と言うと年長者の方は特に喜んで歓迎してくれました。姉妹都市であるということが関係しているのかなと思いました。

四日目に行ったセントフランシスの高校ではピーターに会い、学校を案内してもらいました。同じセントフランシスでも高校は造りも校則もかなり違いがありました。Lina' la' Park はチャモロ民族の生活を再現した場所で、高床式倉庫のような住居を見たりしました。

五日目はセントフランシスでパフォーマンスをしました。やはり、日本の曲の「世界に一つだけの花」は難しいようで盛り上がらなかったけれど 1Dの曲と最後に配ったラムネがとても好評だったので良かったです。これがきっかけで下級生とも親交が深まり校内で会うと声をかけてくれたり一緒にバスケットをしようと誘ってくれたりしました。

六日目は朝 5 時にセントフランシスに行き 5km マラソンに参加しました。完走できるか心配でしたが声を掛け合ったりして楽しく完走することが出来ました。また、Shy に続いて 2 位になれたので良かったです。

帰国当日 Shy の家族はカトリック教徒なので教会で行われている月に一度の集会に行きました。また、Shy の妹の Shayden のお墓参りにも行ったりしました。

その後グアム空港に行き出国する時に Shy のお母さんが私の事を『第 2 の娘』と言ってくれた事が本当に嬉しかったです。

私は今回のグアムへの派遣で何事も失敗を恐れず挑戦していくことの大切さと英語の楽しさを改めて感じました。そして何よりグアムの素晴らしさを知りグアムが大好きになりました。



教会にて

(左から：牧師、Shyann、私、Shyannの両親)